

一 般 質 問 通 告 書

令和 8 年 8 月 1 0 日

議 会 議 長 様

議席番号 1 番

議員氏名 太 田 康 之

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
1. 高齢者が活躍する農業の仕組みを ～ユニバーサル農園・ゆるやか農業で課題の同時解決～	昨今、高齢化が進み医療費・民生費が膨らみ続けている一方、農業では担い手の減少、労働力不足による農業崩壊の危機が喫緊の課題となっている。「退職後人材の活用」という課題と「農業の労働力不足」を掛け合わせることで、双方の課題を同時に和らげる合理的な仕組みが作れると考えている。 一般的に会社員が定年退職となる65歳は農家の平均年齢68歳より若く、年金を受け取れる年齢になったからこそ、「社会に貢献したい」「健康を維持したい」「地域で新たな仲間をつくりたい」など、お金を主な目的とせず新たな生きがいとして農業に参加することが可能とも言える。 近年、農福連携の取組は、障がい者の就労支援にとどまらず、高齢者の社会参画支援にも広がりつつあるとされ、また、地域ぐるみで週1回程度の農作業を通じて自然と触れ合い、仲間づくりを行う「ゆるやか農業」といった取組も各地で進められている。 これらを背景に、高齢者が無理のない範囲で農業に関わることには、多面的な効果が期待でき、他自治体では、高齢者が農業や直売所運営の担い手として活躍し、結果として一人当たり医療費が低い水準にとどまっている例もある。 本町においても、こうした取組を検討していただきたく、以下質問する。	町長 副町長 産業振興課長 農業委員会事務局長 高齢介護課長 担当課長

8 月 1 0 日 午前 1 0 時 0 5 分 受理

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
	(1) アグリパークゆめすぎと又は周辺を活用したユニバーサル農園構想について (※アグリパーク等に人を集める方式) ①世代や障がいの有無を問わず、高齢者が無理なく農業に親しみ、仲間づくりができる「ユニバーサル農園」の整備について町の見解は。 ②岐阜県各務原市では、高齢者の社会参加や健康づくりを目的とした農作業の憩いの場として「はたけサロン事業」を介護福祉事業所へ委託し事業を行っている。また、社会福祉法人やシルバー人材センターへ運営を委託する自治体もある。当町として、同様の取組を検討できないか伺う。 ③持続可能な「杉戸町版・ゆるやか農業」の仕組みづくりについて、「週1日・スポット的に」などから始められる環境づくりが重要と考える。例えば、アグリパークゆめすぎとのカントリー農園などを活用することは可能か伺う。 (2) 農家へ手伝いに行く「高齢者農業サポーター」構想について (※各農家に高齢者を派遣する方式) ①現在、農業委員会で行っている「農のサポーター制度」に近い制度だが、農家への派遣実績と今後の進捗、それに伴う課題は。 ②受入れ農家の登録状況は。 ③最低賃金(埼玉県最低賃金:時給1,141円)が発生すると、当然その数倍以上の利益を生む作業スピードが求められる。作業スピードが遅ければ逆に農家がマイナス分を負担し苦しむ事になる。高齢者とゆるやか農業並びに時給及び報酬についての見解は。 (3) 活用可能な補助制度について 農林水産省が推進する「農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策・農福連携型)」など、農福連携の取組を支援する交付金・補助制度について、本町での活用状況の検討状況を伺う。	